(2019.4改正)

＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：横浜市大久保保育園	種別：児童分野　認可保育所	
代表者氏名：田中 紀子	定員（利用人数）：　106名	
所在地：　横浜市港南区大久保２丁目28-27		
TEL：045-842-0239	ホームページ：https://cgi.city.yokohama.lg.jp/kodomo/hoiku-shisetu/hdata/n0189.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1979年8月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市		
職員数	常勤職員：　18名	非常勤職員　16　名
専門職員	（専門職の名称）	
	園長　1名	副園長　1名
	保育士　27名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室　6室	園庭、調理室、調乳室、沐浴室、乳児トイレ、幼児トイレ、多機能トイレ、事務室兼医務室、保育士休憩室など

③理念・基本方針

【保育理念】自分と人を大切にし、生き生きと生活する中で、豊かな感性を持ち社会の中で生きていく基礎を育む

【園目標】

じぶんがすき　ともだちがすき　いっしょにあそぼう　やってみよう～心もからだも元気な子ども～

【保育姿勢】

・子ども一人一人を大切にし、子どもが安全で安心して生活できるように環境を整えます

・子どもと保護者が共に育ちあう関係をつくります

・すべての子どもたちのありのままの姿を受け入れ、ゆったりと接し見守ります

・保護者の立場や気持ちに寄り添い、子育ての大変さ、楽しさを分かち合います

・地域の中での保育園として、様々な人とのかかわりを持っていきます

④施設・事業所の特徴的な取組

広い園庭があり、身体を思い切り動かしのびのびと遊ぶことができます。乳児クラスのテラス前には幼児クラスの子どもたちが顔をのぞかせ、日常的に異年齢の交流がなされています。園庭には芝生や柿、ミカン、どんぐりなど実のなる樹木があります。また花壇を虫探しのできるコーナーに改造し、子どもたちが夢中になって遊べる空間が広がっています。

栽培物を収穫しクッキングするなど食育に力を入れています。子どもたちは、栽培や飼育を通して命の大切さを学んでいます。
公立の育児支援センター園として、育児支援担当保育士を配置し、育児相談に応じるとともに、園庭開放、育児講座等を行い、地域の親子が安心して利用できる子育て支援の場となっています。また、区内保育教育施設間が連携して行うネットワーク構築事業の事務局園でもあり、専任保育士が「保育の質及び専門性の向上」「地域の子育て支援の充実」「地域のセーフティネットの構築」「地域の保育教育施設の連携の推進」を目的に、施設間のつなぎ役を担っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年5月7日（契約日）　～ 2021年3月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2　回（　2016年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆整えられた環境の中、子どもたちは好きな遊びを見つけ、主体的に園生活を過ごしています
園では、子どもが安心して園での生活を楽しみ、主体的に遊びや生活に関われるように、環境整備をしています。保育室には、子どもの発達や年齢、興味に合わせたおもちゃや教材等が用意されていて、子どもたちは廃材で大きな作品作りをしたり、友達とルールを作ってゲームをしたり、物語の世界に入り込んでごっこ遊びをしたりと、好きな遊びを選んで友達と遊びを広げています。広い園庭があり、晴れていれば毎日、思いっきり身体を動かしたり、季節の自然に触れることができます。片隅には虫探しや泥遊びを楽しむことができるコーナーもあり、観察日にも泥団子作りに熱中している子どもの姿を見ることができました。子どもたちは、友達と一緒に遊ぶ中で、協力してやり遂げる楽しさを味わっていて、幼児になると、クラスで話し合って行事の内容を決め、取り組んでいます。

◆保育士は、話し合いの機会を多く持って子どもの姿を共有し、連携して保育にあたっています
保育士は、クラスや乳児・幼児会議で一人ひとりの子どもの姿について話し合うとともに、保育での子どもの姿を写真に撮って検討するフォトカンファレンスや園内公開保育を通して、より良い保育について学び合っています。年度初めには、園目標をテーマに話し合い、それぞれの保育観を共有し、方向性の統一を図りました。環境（園庭・２歳児プロジェクト）・食育・防災の4つのプロジェクト活動もしています。このように、話し合いの機会を多く持つことで、職員間のコミュニケーションが深まっていて、連携する体制ができています。園内研修で自己研鑽を積み、保育士は、目指す保育の実現に向けて、主体的に取り組んでいます。

◆地域の育児支援センター園として地域に向けた子育て支援事業を展開しています
園は区の育児支援センター園として担当保育士を配置し、区内公立のセンター２園とともに民間保育園とも連携し、区内全体の保育の質の向上等に取り組んでいます。子育て支援事業としては、園庭開放、絵本の貸し出し、親子の遊び場「子育てサロン」「あかちゃんひろば」のほか、例年は育児講座などを定期的に実施しています。育児相談も受入れ、担当保育士が丁寧に応じています。観察時は、コロナ禍のため、園庭開放は時間を変更して行っていましたが、地域の親子が利用していて、地域に根付いている様子を

確認することができました。

◇改善を求められる点

◆保育の可視化をさらに進め、保護者の園への理解を深めていくことが期待されます
園は、保護者が園の保育や子どもへの理解を深められるよう、保育の「見える化」に取り組んでいます。３・４・５歳児のクラスノートでは写真を多く用い、日々の子どもの様子が伝わるようにしています。また、行事前には、行事だよりを発行し、行事に取り組む子どもの様子を詳しく伝えるなど、様々な工夫をしています。保育目標についての話し合いをまとめて掲示して保護者の感想を書いてもらったり、フォトカンファレンスや園内研修についても掲示しています。今後も、積極的に保護者への情報提供を継続していくとともに、ICTの活用など新しい生活様式に合わせた発信方法を工夫していき、保護者の園への理解をさらに深めていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

例年とは違うコロナ渦の中、そして大規模修繕中の第三者評価受審でした。通常の園の様子を見ていただくことが難しく残念な面もありましたが、反面コロナ渦であったからこそ改めて保育の詳細を確認したり見直したりすることもできました。今回自己評価プロジェクトメンバーが中心となり、全職員でひとつひとつ項目を確認し意見交換しながら進めてまいりました。「神奈川版」での受審となり、特に運営や経営面の項目は公立園にとって該当する書類が何なのか、社会福祉施設の職員として皆が理解していなければいけないこと等を考える機会となり自分たちの大きな学びとなりました。日常の中で「保育を語ること」はとても重要ですが、なかなか十分にできなかった私たちが、受審をきっかけに職員が自ら時間を作り、語り合う大切さ、そして楽しさを知る機会となったことは大きな収穫です。
保護者の皆様に職員の思いや考え、子どもたちの姿を丁寧にお伝えし、園の保育や子どもへの理解を深めていただけるよう「発信」に努めてまいりましたが、まだまだ十分でないことも実感いたしました。評価結果を真摯に受け止め、今後も保育の可視化に力を注いでいきたいと考えています。
最後に、丁寧な聞き取りや保育の観察、現場の声を評価に反映させていただいた、よこはま地域福祉研究センターの皆様に心より感謝申し上げます。また、お忙しい中アンケートにご協力いただきました保護者の皆様ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり